

2021年4月野菜概況

北日本の降水量はかなり多いが、全国的に日照時間は多く、気温高で推移した。

全国的に気温が高く日照量も多くなったが、朝晩に冷え込む日もあり、ほうれんそうの数量減少などが起きた。4月の野菜総入荷量は128,101t(前年比103%)で平年並み。価格235円(91%)は平年よりやや安。金額は30,142百万円(94%)で平年をやや下回った。

だいこんは神奈川県産が終盤となる中で千葉・茨城産が出回り数量充分。荷動きはますます良好で、月末には各産地前進出荷のため数量減少し、相場はやや上昇した。総入荷量は平年並み、価格69円(62%)は平年の3割安。にんじんは徳島産が漸増して前月までの高値から下落したものの、小玉傾向で前進出荷の影響から下旬は出回りが落ち着き相場が上向いた。総入荷量は平年よりやや多く、価格163円(103%)は平年並み。

はくさいは茨城産が潤沢な出回りで、前年のような漬物特需もなく販売は低調。中下旬は降雨や品種の端境から減少して相場が上がる場面もあった。総入荷量は平年並み、価格41円(22%)は平年より6割以上安。キャベツは下旬にかけては愛知産冬系の終盤や神奈川県産がピークを越えたことで減少するも、千葉産が増量。全体量としては安定役な出回りが続いた。総入荷量は平年よりやや多く、価格70円(50%)は平年の3割以上安。ほうれんそうは上旬まで潤沢だったが中旬は冷え込みと生育前進による端境で急減して相場急騰。数日後には数量回復して元の水準に収まった。総入荷量は平年より2割近く多く、価格428円(77%)は平年の1割安。ねぎは春作が増量するも秋冬作が切り上がり全体量は伸び悩んだ。出始めた夏ねぎへの移行も進まず高値推移。総入荷量は平年より1割少なく、価格467円(155%)は平年の5割近く高。レタスは茨城産が4月上旬までは温暖だったため前倒し傾向での出荷。兵庫産も合わせた全体量多く安値基調。中旬からは出荷終盤なことや気温低下から減少し、後続の長野・群馬産が漸増するも全体量少なく相場上昇となった。総入荷量は平年並み、価格115円(56%)は平年の3割安。

きゅうりは埼玉・群馬・千葉産中心の出回りで、概ね順調な出荷。相場は緩やかに下がりつつも荷動きは良好であった。総入荷量は平年並み、価格266円(92%)は平年の1割高。なす類は高知・福岡産を中心に微増傾向となり、相場は緩やかに下がりつつも荷動きは概ね良好であった。総入荷量は平年並み、価格414円(93%)は平年並み。トマトは熊本産を中心に概ね順調な出荷となり、相場が徐々に下がったことにより荷動き良好であった。総入荷量は平年並み、価格335円(81%)は平年の1割安。ピーマンは宮崎・高知・茨城産が順調出荷で増量傾向となり潤沢な出回り。特売等入りながら荷動きも概ね良好な販売。総入荷量は平年より1割近く多く、価格480円(74%)は平年並み。

ばれいしょ類は鹿児島産が離島から本土に移行して前月よりやや増量、長崎産も始まったが全体量は少ないままで高値が続いた。総入荷量は平年より1割以上少なく、価格301円(191%)は平年の7割高。たまねぎは北海道産が安定出荷。静岡産は終盤に向け減少し、佐賀産が増量傾向に。コロナ禍での業務需要減退で荷動きは鈍めだが、新玉ねぎの荷動きはますます良好。総入荷量は平年よりわずかに多く、価格79円(134%)は平年の2割安。

【輸入野菜】ごぼうは2020年秋作が作柄良好だったため前年より大幅増。にんにくは国産が高値だったことや、前年がコロナ禍で港湾作業が停滞して輸入が少なかったことから中国産を中心に前年比大幅増。ねぎも中国産福建省の生育回復により前年比大幅増。一方、キャベツはコロナ禍で外食需要が減退する中で国産が安値となったため、中国産を中心

2022年1月 東京青果株式会社営業管理部 作成

に前年比大幅減。かぼちゃもコロナ禍で外食需要が減退する中でNZがコンテナの不足や輸送コスト高の影響で前年比やや減。